

事業所名	放課後等デイサービス ディライト西宮				作成日	2025年1月20日				
法人（事業所）理念	一期一会　その日、その場所、その瞬間の笑顔を大切に									
支援方針	「成」～子どもたちの自主性をはぐくみ、成長の土台を作ります。 「個」～個性を尊重し一人ひとり合った居場所、役割を見つめます。 「生」～生き生きと、自分らしく、楽しく社会生活を送っていけるようサポートします。									
営業時間	10	時	分から	18	時	30	分まで	送迎実施の有無	（あり）	なし
利用時間	10	時	分から	17	時	30	分まで			
支援プログラム表										
項目(5領域)	ねらい・目的			支援内容				具体的な例		
【健康・生活】	・健康状態の把握・維持・改善 ・生活のリズムや生活習慣の形成 ・病気の状態の理解と生活管理 ・身体各部の状態の理解と保護 ・障害の状態の理解と生活環境の調整 ・生活におけるマネジメントスキルの獲得			・意思表示が困難であることなどの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 ・発達の段階に応じて、身体各部の状態や補助機器(車いす、杖、補聴器等)を用いる際の留意点等を理解し、自らその部位を適切に保護する力を育てていけるよう支援する。 ・自らの障害にどのような特性があるのかを理解し、それらがおよぼす生活上の困難について理解を深め、その状況に応じて、自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりして、より学習や生活をしやすい環境にしていけるための支援をする。 ・自分で何をするかアイデアを出しながら、自分の生活をマネジメントすることができるよう、こどもの意向を受け止めながら、自分で組み立ててできる行動を増やしていけるよう支援する。				・来所時の検温、必要に応じて血中酸素飽和度(SpO2)の検査。 ・活動に対して状況に応じて水分の声掛けと小休止の促し。 ・気温等に合わせた衣服の調整の介助、声掛け。 ・個々の健康に合わせて散歩や階段昇降などの運動。 ・衣服着脱によるボタンや衣服の畳み練習など。		
【運動・感覚】	・姿勢と運動・動作の基本的技能 ・姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ・日常生活に必要な基本動作 ・身体の移動能力 ・保有する感覚の活用 ・感覚の補助及び代行手段の活用 ・感覚を総合的に活用して周囲の状況についての把握と状況に応じた行動			・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関することを支援する。 ・食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴など日常生活に必要な基本動作や、活動する上で必要な基本動作を身に付けることができるよう支援する。 ・自力での身体移動や歩行、歩行者や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力や、事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的場面における移動能力の向上が図られるよう支援する。 ・障害の状態や発達の段階、興味関心に応じて、将来の社会生活等に結び付くように、保有する感覚を用いて、状況を把握しやすくなるよう各種の補助機器や ICT を活用及び、他の感覚や機器での代行的な確にできるように支援する。				・個々の興味や特性に合わせて散歩や階段昇降の運動。 ・季節に合わせての遊びを通じた運動(プール、ハイキング、追いかけっこ) ・掌での水をすくってうがいをする手指や腕の使い方の練習。 ・公園での遊具などを通じての体を動かす遊び(アスレチック、ブランコ、滑り台等)		
【認知・行動】	・感覚や認知の特性についての理解と対応 ・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得			・一人一人の感覚や認知の特性を理解し、それらを踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるよう支援する。 ・物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。 ・感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。				・針時計の絵本やデジタル時計を活用して数字と長針短針が同じ時間である事を紐付ける。 ・おもちゃや道具遊びなどの活動を通して適切な使い方などの練習に取り組み。 ・工作などで道具の使い方を学びながら、空気砲を作成中にドライアイスを入れて普段は見えない空気の流れを目で見る。 ・音楽を鳴らしてリズムを作りリズムに合わせて体を動かしたり歌ったりする。		
【言語・コミュニケーション】	・コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・言語の受容と表出 ・言語の形成と活用 ・コミュニケーション手段の選択と活用・状況に応じたコミュニケーション			・障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けることができるよう支援する。 ・話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるよう支援する。 ・コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるよう支援する。 ・障害の特性及び心身の発達段階等に応じて、話し言葉や各種の文字・記号、絵カード、機器等の適切なコミュニケーション手段を選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるよう支援する。				・ひらがなカードを活用し文字と言葉の理解を遊びを通してながら言語能力を身に付ける。 ・ひらがなタブレットなどの機械も活用し文字と音を楽しみながら触れられる環境を用意する。 ・絵カードや言語コミュニケーションツール(PECS「ペクス」)などを活用しながらコミュニケーション能力の向上に繋げる。 ・ソーシャルスキルトレーニングなどの様々な場面想定を提供する事で状況に応じた対応の練習に繋げる。		
【人間関係・社会性】	・他者との関わり(人間関係)の形成 ・他者の意図や感情の理解 ・自己の理解と行動の調整 ・仲間づくりと集団への参加 ・情緒の安定			・人に対する基本的な信頼感を持ち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるように支援する。 ・他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとることができるように支援する。 ・自分のできごとや苦しいことなど、自分の行動の特徴などを理解し、自己を肯定的に捉えられる機会を通じて、気持ちや情動を調整し、状況に応じた行動ができるようになる支援する。 ・集団の雰囲気や合わせたり、集団での決まり等を理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるように支援するとともに、共に活動することを通して、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。 ・自身の感情、気持ち、生理的な状態像への気づきや関心を持ち、その変化の幅を安定させることに興味を持てるように援助し、変化の幅が小さく安定した情緒の下で生活ができるよう支援する。 ・安定したアタッチメントの支援自身の感情が崩れたり、不安になった際に、大人が相談等によることで、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるように「安心の基地」の役割を果たせるよう支援する。				・他者との関わりの際に起きたトラブルに対して職員の仲や声掛けを行い、子ども同士での解決に繋がるよう支援を行い、時には見守り子どもだけでの解決を促す。 ・自己の感情の度合いなどを絵や数値で表現し自身が現在のどのレベルの感情なのかを自己理解に繋がる支援などとしている。		
家族支援	定期的に面談を行い悩みの相談受付。早期利用の受け入れ。				移行支援		移行先の事業所との連携を図りスムーズな移行に繋がるよう支援を行っている。			
地域支援・地域連携	自治会との協力や行事イベント(年末特別警戒等)の参加。学校との協力連携。				職員の質の向上		定期的な社内研修や外部研修への参加。			
主な行事等	四季に合わせた活動、外出活動、毎日の集団活動、工作活動、昼食レクリエーション、おやつ作り、お買い物練習									